

## 【山陽学園大学・短期大学】

昨年、山陽学園は創立 130 周年を迎えた。平成 29 年度は、その歴史と伝統と踏まえながら、本学の教育の基本理念である「愛と奉仕」の精神を基軸として、教育、研究、地域貢献活動などの諸活動を推進する。

特に、定員割れが続いている深刻な状況を打開することを最重点に掲げ、学生の満足度を高め有為な人材を育成することによって、学生や地域社会からの信頼を獲得し、学園の再生を図る。

この事業計画は、P D C A による管理を行いながら推進する。

### 1 基本方針

- ①学生の満足度を高めるため、学生の向学意欲を喚起し、より高く幅広い知識の修得を目指した教育を実施する。
- ②入学前教育から就職後のフォローアップまで、個々の学生に応じたきめ細かな支援を行う。
- ③全ての教職員が、専門知識の深化を図り業務遂行能力の向上に努めるとともに、学園の円滑な運営と発展に向けて組織的に取り組む。
- ④戦略的な地域連携の推進や広報活動により、学園の認知度を高める。

### 2 教育目標と実現の方策

#### (1) 教育目標

これまでの経験が通用しにくくなった時代にあって、新たな課題に対応しながら地域社会の発展に貢献するための専門的知識・技能を修得させるとともに、人生を生き抜くための思考力や判断力、そしてコミュニケーション能力などを身に付ける人間教育を実践する。

- ①平素の授業や学生指導を通して、豊かな人間力を養う。
  - ・山陽スタンダードや教養科目の充実、きめ細かな学生指導など
- ②専門知識・技能に加え社会人基礎力を習得させ、即戦力となる人材を育成する。
  - ・アクティブラーニングの拡充、実習の充実、就職支援科目の充実など
- ③外部の教育力も活用し、地域社会に貢献する意識を涵養する。
  - ・地域実践型授業の充実、地域連携事業の推進など
- ④異文化体験を推進し、グローバルマインドを養う。
  - ・学生の海外体験の推進、留学生との交流講座の実施など

#### (2) 各学部学科の目標と方策

教育目標を高く掲げるとともに、学生の授業評価等を踏まえ、目指すべき教育が効果的に達成できるようカリキュラムや授業内容の不断の見直しを行い、専門教育の一層の充実を図る。

#### ①総合人間学部

- ・授業の工夫、外部検定や海外研修等の推奨により、実用外国語能力を向上させる。
- ・コース制の見直しや教職課程の履修率向上などにより、学修レベルの底上げを図る。

#### ②看護学部

- ・入学前教育、初年次教育の充実により、専門教育への円滑な移行を図る。
- ・事前準備と指導体制を整え、充実した看護実習を実施する。

#### ③助産学専攻科

- ・国家試験対策講座や模擬試験を活用して国家試験合格率 100%を達成する。
- ・読書を奨励し、新聞記事学習や品性を高める教育などを通して、幅広い知識と豊かな教養を備えた人材を育成する。

#### ④大学院

- ・積極的な学会発表などを通して、教育研究水準の向上を図る。

#### ⑤食物栄養学科

- ・学修成果発表の場を設定し、専門知識や技術を確実に修得させるとともに、栄養士としての目的意識を高める。

#### ⑥幼児教育学科

- ・保育者としての目標意識を高め、必要な実践力・実務能力を確実に修得させる。
- ・地域連携活動等を通して社会性を育て、実践力を高める。

### 3 多様な学生の受入れ

少子化が進行する中で定員確保は至上命題であり、学生募集の第一義的責任者を学部長、学科長として組織の総力を挙げて取り組む。また、高校訪問等の募集活動に際しては、学園を背負った思いを持って対応する。

#### (1) 募集活動の工夫等

- ・全ての教職員が本学の“強み”を共通認識して募集活動を展開する。
- ・オープンキャンパスは、参加者の興味を引き、よい印象が残るよう不断の工夫に努める。
- ・特定の高校をターゲットにした高大連携の拡充やオープンキャンパスを実施する。
- ・県外学生の増加を図るため、空路のある沖縄県を対象に積極的な募集活動を行う。
- ・新学部の学生募集に当たっては、普通科高校に加えて農業、商業、工業高校、さらに定時制・通信制課程の高校にも積極的にアプローチする。

#### (2) 外国人留学生の受入れ

- ・外国語専門学校との連携により、語学力の高い留学生の受け入れに努める。
- ・語学力のより高い留学生に対応できるようカリキュラムを見直し、平成 30 年度募集から適用する。

### (3) 社会人学生の受入れ

- ・長期履修制度を積極的にPRし、若年社会人や退職者層の入学につなげる。
- ・まずは、科目等履修生を募集することを目指し、退職者や専業主婦に人気が見込める科目を積極的にPRする。

## 4 研究活動の活性化

- ・学内研究補助金制度の活用、科研費や公共団体補助金等の外部資金の獲得により、研究実績を上げる。さらに、学外共同研究の推進に取り組む。
- ・学会誌等に積極的に論文発表することで、教育研究の客観的成果を公表するとともに、パブリシティの活用により広く一般に発信する。
- ・大学と短期大学の学内紀要を一本化するとともに、内容の充実を図る。
- ・教育内容は、研究成果としてまとめるよう努める。

## 5 学生支援の強化

アドバイザー、クラス顧問を“持ち上がり担当制”とするなど、1年次から個々の学生とより緊密なコミュニケーションが取れるよう工夫し、定期的な面談指導や成績不振者の保護者懇談、就職指導を行うなど、本学ならではのきめ細かな個別指導を実施する。

### (1) 学修支援の強化

- ・入学前教育、リメディアル教育、初年次教育の充実により、専門教育への円滑な移行と着実な学修を支援する。
- ・学修成果発表の場を増やし、学修意欲やプレゼンテーション能力の向上を図る。

### (2) 生活（キャンパスライフ）支援の充実

- ・スポーツや文化活動など学生のサークル活動を支援し、学園の活力創出につなげる。また、山陽女子高の部活動との交流を推進する。
- ・大学祭を盛り上げるため、近隣の高校や自治会等の参加を働きかけるなど、大学祭実行委員会の活動を支援する。
- ・学生の悩みごと相談については、学生相談室が第一義的窓口としての確に対応するとともに、必要な情報は関係機関が共有しフォローアップする。
- ・外国人留学生からの相談等については、共生・グローバル推進センターが第一義的窓口として対応し、必要な情報は関係機関が共有しフォローアップする。
- ・全ての人々が障害の有無にかかわらず学園内で自立した生活を送れるよう、学園関係者の意識を高める。

### (3) 就職支援の強化

- ・就職に有効な資格取得を支援するとともに、学生の就活意欲と目標レベルをさらに高めることができるよう、就職支援科目の充実を図る。

- ・キャリアセンターと学科アドバイザー等との緊密な連携により、計画的で機動的な就職支援を行う。
- ・より高い目標を設定し、新たな企業開拓を行うとともに、学生の積極的な就職チャレンジを支援する。
- ・職場訪問やアンケート調査の実施などにより、卒業生のフォローアップと企業との関係強化に努める。

## 6 地域連携の推進

### (1) 公開講座等の拡充

- ・大学が有する教育資源を地域社会に還元するとともに、協定自治体との連携の推進や学園のPRも意識して、公開講座を積極的に実施する。

### (2) 地域との協働事業の推進

- ・ボランティア支援・社会サービスセンターを改組して「ボランティア支援・地域連携推進センター（仮称）」を設置し、市町村等との相互協力体制の下で協働事業を積極的に推進する。

### (3) ボランティア活動の推進

- ・ボランティア登録制度の普及により、ボランティア情報を学生に効果的に周知する。
- ・部活単位でのボランティア活動を積極的に奨励する。

## 7 施設整備

- ・新学部の設置に合わせてDOMUSを改修し、講義室や学生のためのミーティングルームなどを整備する。
- ・その他、可能な環境整備に努める。

## 8 大学運営の強化

組織的な大学運営を行い、教育方針の周知や危機管理の徹底を図るためガバナンスの強化に努めるとともに、本学のブランド再生と学生確保に向けて広報体制を強化する。

### (1) ガバナンスの強化

- ・合同会議、教授会議、学科会議、各ワーキンググループ会議等が円滑に運営され十分機能するよう、それぞれの構成員は役割を果たす。また、時々の課題にタイムリーに対応できるよう機動的な開催に努める。
- ・あらゆる自然災害や事件を想定し、緊急連絡体制の構築や被害の未然防止策、発生時の対応などを明確にし、定期的な訓練を行う。
- ・学内でのハラスメントの防止、各方面からの苦情・意見等への対応など、教育や人権に関わる諸問題へ迅速かつ的確に対応する。

- ・大学が保有する情報の漏洩や外部からのサイバー攻撃等に対応するため、情報セキュリティ対策の強化と教職員の研修に努める。

## (2) 広報活動の強化

- ・大学広報室の下に広報体制を一元化し、組織的な情報発信とマスメディア対応を行う。
- ・パブリシティを有効活用するため、マスメディアに取り上げられることを意識して情報提供の工夫やアフターフォローを行う。
- ・ホームページへの情報掲載は、タイミングを逃さず、写真や図表を活用するなどビジュアルの工夫に努める。
- ・山陽学園の校章やスクールカラーなどをあらゆる機会において前面に出すことを意識する。

## 【短期大学附属幼稚園】

### 1 教育目標

自然に恵まれた環境を活かして、心身ともにたくましく、心豊かな子どもを育てる。

- ・思いやりあるやさしい子ども
- ・根気強く頑張る子ども
- ・考えて行動する子ども
- ・健康で笑顔が輝く子ども
- ・自分のことは自分でする子ども

### 2 教育の充実等

- ・豊かな自然との関りを通して好奇心や探求心を育むとともに、園の継承活動であるオペレッタ等を通して豊かな感性や表現力を育む。
- ・大学や地域、家庭、ボランティアなどと連携した多様な学びの場を通して、園児に心の通う人間関係の素地を養う。
  - (大学との連携) 歯磨き指導、手洗い指導、英語教育、保護者向け講演会など
  - (地域等との連携) お茶会、陶芸、餅つき、野菜作りなど
- ・次期新学習指導要領の動向も踏まえ、大学と連携して英語学習を充実し、特色教育の一つとする。
- ・「クラス便り」の充実や家庭・地域と連携した活動の実施により、園の教育内容の発信に努める。
- ・幼保連携型認定こども園への移行を視野に、2歳児保育、預かり保育時間の延長などを進める。
- ・教員の専門知識・技能を磨くため、計画的な研修を実施する。

## 【 数値目標 】

<b>【定員の確保】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学部を除き H30 年度の入学定員を 100%確保する。 (新学部については入学定員 80%を確保する。)</li> </ul>			
大学	(H26 入学)	82.5%	(H27) 76.0% (H28) 75.5%
短大	(H26 入学)	95.6%	(H27) 97.2% (H28) 68.3%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・山陽女子高からの入学者を 50 人以上確保する。 (H27 入学) 35 人 (H28) 33 人 (H29) 32 人[仮]</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・AO入試による入学者を 50 人以上確保する。 (H27 入学) 43 人 (H28) 26 人 (H29) 41 人[仮]</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスの参加者を 20%増やす。 (H26) 909 人 (H27) 813 人 (H28) 722 人</li> </ul>			
<b>【教育の充実】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中途退学者・除籍者の割合を 3.0%以下にする。 (H25) 3.9% (H26) 4.2% (H27) 3.8%</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学生の GPA 平均値を 2.4 ポイント以上とする。 (H26) 2.37 ポイント (H27) 2.25 (H28 前期) 2.28</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による授業評価が 3.9 ポイント以上の授業の割合を 90%以上とする。 (H28 前期) 86.8%</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学修成果発表の機会を各学科で 2 回以上設定する。</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査により、「教育内容について満足している」と回答する学生が 70%以上になるようにする。</li> </ul>			
<b>【資格取得の推進】</b>			
看護師国家試験の合格率	100%を達成する。	(H25) 90.4%	(H26) 91.3% (H27) 92.5%
助産師国家試験の合格率	100%を達成する。	(H28)	一新規-
<b>【希望する就職の実現】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての学科で就職率を 100%にする。 (H27) 言語 95.2%、生活 100%、看護 100%、食栄 98.2%、幼教 100%</li> </ul>			
専門職への就職率	を 80%以上にする。【食栄】	(H25) 82.0%	(H26) 73.9% (H27) 75.9%
専門職への就職率	を 95%以上にする。【幼教】	(H25) 95.8%	(H26) 88.2% (H27) 88.7%
<b>【研究活動の活性化】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部資金（科研費等）を 10 件以上獲得する。 (H26) 4 件 5,200 千円 (H27) 6 件 6,890 千円 (H28) 8 件 10,010 千円</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての教員が論文等の発表 1 件以上又は学会発表 1 回以上を行う。</li> </ul>			
<b>【地域連携・地域貢献の推進】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学・短大が主催（共催）する地域との連携事業を 20 件以上実施する。 (H28) 16 件</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のボランティア参加人数を延べ 200 人回以上とする。 (H28) 173 人回[仮]</li> </ul>			
<b>【その他】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリシティによる情報発信を年間 60 件以上行う。</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書貸出冊数を学生一人当たり 15 冊以上とする。 (H25) 16.1 冊 (H26) 14.1 冊 (H27) 12.6 冊</li> </ul>			